




無駄コン ゼロ計画

環境と働き方をもっと良くする、考える

残コン・戻りコンの削減も
建設業が担う環境保全の1つとして
皆さんで取り組んでいきませんか

残コン・戻りコンの削減によって様々な問題が解決されます。
東京地区・玉川・三多摩の各地区の協同組合では、残コン・戻りコンと言われている
無駄なコンクリート「無駄コン」ゼロを目指して様々な取り組みを推進しています。
環境保全活動の1つとしてご理解・ご協力いただければ幸いです。



無駄コン

東京地区・玉川・三多摩の生コンクリート協同組合が
納入した建設現場で、使用されずに生コン工場に戻された
コンクリートの数量は、驚きの数字となりました。

玉川生コンクリート協同組合

年間の無駄コン量

年間約 **14万7,000** m³
(2014年度～2018年度平均)

1棟100戸規模のマンションが

年間 **25** 棟分

[参考] 1棟 100戸のマンションを6,000m²で換算

日本全国では

年間で約 **160** 万m³ もの無駄コンが発生
日本を代表するダム **1** 基分

[参考] ・日本全国で出荷される年間生コン数量は約8,195万m³ (2019年度)
そのうち2%を無駄コンとして換算

・黒部ダムのコンクリート打設総量は160万m³

無駄コンについて

残コン

アジテータ車から一部を荷卸しするが、
残されて工場に持ち帰る生コンクリート

戻りコン

アジテータ車から全く荷卸しせずに、
工場に持ち帰る生コンクリート



無駄コン

工事現場で使用されずに
生コン工場へ戻った生コンクリート

無駄コン率
[2019年度]東京地区
3.4%玉川
2.28%三多摩地区
2.08%

これはアジテータ車4.25m³積/台換算で約34,590台分を
生コン工場に持ち帰っていることになり、セメントなどの原材
料、廃棄物処理、車輛燃料などが無駄に消費されています。



工場で廃棄を待つ無駄コンから発生したコンクリートくずの山

無駄コンによる環境負荷

生コン工場へ戻された無駄コンは、処理作業が行われた後、最終的に栃木県などの中間処理場に産業廃棄物として運ばれます。



東京から栃木まで
片道120km



産業廃棄物として中間処理場へ運ぶのに必要な運搬車両台数

年間延べ **3万1,238**台

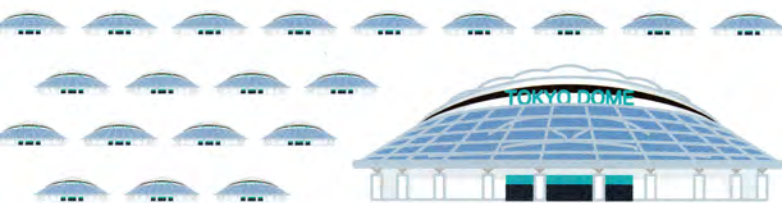


中間処理場に向かう運搬車両から排出されたCO₂を吸収するのに必要な杉の木の本数



年間 **33万8,660**本分

[参考] 適切に手入れされている80年生のスギ人工林の1本が1年間に吸収する二酸化炭素の量=約14kg [林野庁の算出より]



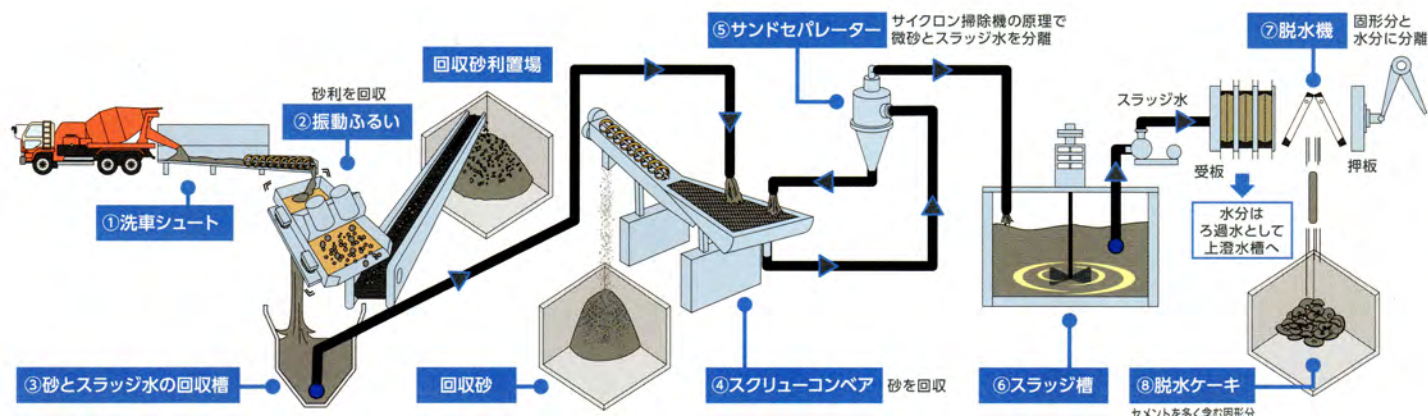
CO₂を吸収する杉の木に必要な森林面積

東京ドーム **153**個分

[参考] 東京ドームの敷地面積4万7,000m²、杉の木1本あたりの敷地面積22m²で換算

無駄コンの処理にはこれだけの手間がかかります

現場から戻ってきた無駄コンは、ほとんどが産業廃棄物となります。都市部の生コン工場では、粉塵や騒音の抑制のため、中間処理施設に廃棄する前に、多くの時間をかけて水分と骨材に分ける処理作業が必要となります。



いずれなくなる資源

採石場 生コンとなる資源の山も、いずれはなくなります



この山は、数十年後に採掘ができなくなります。

中間処理場 無駄コンから処理された路盤材は増えるばかりです



栃木県は他県からの産業廃棄物の受け入れには難色を示しており、無駄コン削減は環境保全において大きな課題となっています。

地球を廃棄物だらけにしないためにも、資源を大切に、
未来について考えていきましょう。

働き方問題

2020年4月1日から「働き方改革関連法」が施行され、生コン業界では残業時間の削減にむけ、無駄コン問題にも具体的に取り組んでいきたいと考えています。生コン工場の残業時間削減へのご協力にも、どうぞよろしくお願いいたします。